

# きんぱく

今号のテーマ

## 金沢箔ヒストリー



©金沢市

白鳥路に立つ金鯱尾兜姿の前田利家像。利家はトレードマークでもあるこの長い兜を金と銀、それぞれ複数所有していた。



©石川県

『金沢』の地名の元になったと言われている金城霊沢。真夏でも枯れず、長雨にあふれることもなく、いつも静かに清水をたたえている。

### なぜ金沢は 金箔大国になったのか。

石川県で金箔が製造された記録は1593年が最初だと伝えられる。それから400年あまり。なぜ金沢は、金箔の国内生産のほとんどを占めるようになったのか。歴史的背景や気候風土との関係は？知っているようで知らない金箔の歴史をひもとく。

## 金沢箔ヒストリー

## 兼六園は砂金の産地!?

1万年前から続く  
金沢と金のつながり

金箔王国・金沢で金箔が作られたという最初の記録は1593年。意外に近年になってからだと思われるかもしれないが、豊臣秀吉の朝鮮出兵に同道していた前田利家が明の使節団の出迎え役を言い渡され、武者揃えの槍などを飾るために陣中から書面を送り箔を作らせたというのが記録として現存する最も古いものだ。この時の箔職人は京都伏見から招いた。前田利家入城以前から金沢に箔職人がいたとも言われているがこれに関しては、確かな記録が残っていないため正確にはわかっていない。

ただ、金沢で金が産出したのは間違いない。犀川上流には、1608年に農民によって発見され、その後100年にわたって藩が管理・採掘した倉谷鉱山がある。記録によると、兼六園を含む小立野台地は約1万年前にこの鉱山から流出した土砂が堆積してできた土地だそうで、戦国時代には砂金を採掘するために大勢の人が集まったという。

金沢の地名の由来  
芋掘り藤五郎伝説

昔々、加賀国の山科という里にイモを掘って生活する藤五郎という男がいた。貧しいけれど実直で純粋な藤五郎のもとにある日、都から美しい姫が「嫁にしてくれ」と莫大な持参金を持ってやってきた。その中にあった砂金袋を持って町に買い物に出かけた藤五郎は途中、二羽の鳥を見つける。鳥を捕って新妻に食べさせてやろうと砂金袋を鳥目掛けて投げつけた。ところが、袋の口が開いて砂金はバラバラにこぼれ、鳥は逃げてしまう。手ぶらで帰った上、砂金を失った藤五郎に嫁は落胆するが「あんなものはイモを掘ったらいくらだってでてくる」という藤五郎。半信半疑で芋掘りに嫁が同行したところ、なんと藤五郎の言う通り。イモのひげ根にいくつもの砂金がつき、イモがキラキラと輝いていた。

この砂金を洗った場所が「金洗い沢」と呼ばれるようになり、金沢の地名の由来となったというのが定説だ。金洗い沢は、兼六園の中にある金沢神社に隣接する金城霊沢だといわれている。



現在のものは、加賀藩第12代藩主・斉広の時代に整備された。©石川県

記録としての金箔製造は400年余りだが、1万年も前から金沢と金



## 日本と世界の金箔事情

## 日本には、仏教とともに伝来

日本で最も古い金箔製造とはいえば、実はこれも定かではない。古くは古墳時代のアクセサリーに使われたものが出土しているが、日本で金箔を製造するようになったと言われる時期は、仏教とともに中国から伝来したと言われる西暦552年と577年をはじめ、諸説が伝えられている。

749年、東大寺大仏殿建立の際に「陸奥國小田郡(現：宮城県遠田郡)産出の金を使った」ことが日本書紀に記載されている。陸奥國小田郡は、日本で初めて金を産出した場所で、現在もその場所には黄金山神社が鎮座している。



海外に目を向ければ、金箔の歴史はもっと古い。紀元前1200年頃のエジプトではファラオをはじめ貴人の装飾品に多く使用されていたことがわかっている。エルドラド(黄金郷)があったとされるインカ帝国の遺物にも金製品は多い。そもそもエルドラドとはスペイン語で「金箔をかぶせた」を意味する言葉だ。金箔という形にこだわらなければ紀元前6000年の古代シュメールの時代には、人類はすでに金製品を手

にしていたという。

## 幾度もの禁制・統制を経て

江戸から現代  
箔の盛衰はジェットコースター

視点を金沢に戻そう。

江戸初期の金沢はすでに金箔が製造されていた。仏教文化の広まり、仏教文化の隆盛とともに技術の発展もめざましかったのだろう。さまざまな分野の工芸が奨励されていた加賀藩に、金箔が浸透していったのは想像に難くない。

ところが1667年、幕府が各地で貨幣を製造すること

金箔博士のウンチク講座

## 縁付金箔と断切金箔

今回は、読者からいただいた「縁付金箔と断切金箔の違いは何ですか?」という、金箔についての基本的な質問にお答えします。日本国内には製法の異なる二種類の金箔があります。一つは、縁付金箔(金沢伝統箔)と称して、伝統的な製箔法によるもので、古い歴史をもっています。もう一つは、断切金箔と呼ばれるもので、昭和40年代、金箔の需要が急増した時期に、金沢の金箔職人のグループによって開発された近代的製箔法です。

基本的な違いは、仕上げの箔打ち工程で使用する打ち紙が異なることです。縁付金箔では、手漉きの雁皮紙に、稲わらの灰から抽出した灰汁に鶏卵や柿渋を加えた液体を含ませ、それを半年かけて乾燥と空打ちを繰り返すことによって、強くてなめらかな打ち紙に仕上げたものを使用します。一方、断切金箔では、パルプを原料とした廉価なグラシン紙をベースとし、紙の両面にカーボンを含む顔料を塗布し、乾燥したものを打ち紙としたもので、使用できるまでに数日ですみます。

手漉きの雁皮紙の繊維は細くて長く、紙として強い。金箔の伸びが悪くなると前述の処理を行うことによって何度も再生して使用できます。一方、グラシン紙の場合、耐久性が無いので、数回使用した後、廃棄処分にします。しかし、金箔の生産性は高く、現在、金沢金箔の7~8割がこのグラシン紙を使用した断切金箔です。

特徴として、縁付金箔は、厚さが約0.0001mm(0.1 $\mu$ m)、反射光がソフト、透かすと格子模様(紙漉きの紗の目)が見える、軟らかい、などであり、美術工芸品や文化財級の建築物の内外装によく使用されます。一方、断切金箔は、縁付金箔に比べて、幾分厚い、光沢がある、透かすと放射状の模様が見える、硬い、などであり、一般向けの工芸品や建築物の内外装に使用されています。歴史的には、伝統箔としての縁付金箔だけで需要が賅えなかった分、断切金箔で補完してきたという重要な意味がありました。

安江金箔工芸館には、これらの違いがよくわかる展示があるので、参考にしてください。

(所長 北川和夫)

### 断切金箔

箔が打ち終わり、矩形に仕上げる工程で、断切金箔はまとめて断裁するが、縁付金箔では1枚ずつ手作業で切断を行う。

### 縁付金箔



菱川師宣画「和国諸職絵つくし」より「箔打ち」  
現在も七尾市に箔打ち台(石製)が残っている。

国立国会図書館蔵

を禁止して金銀銅の地金を管理するようになる。地金が入手できなければ、箔の製造も一気に困難になる。ここに追い打ちを掛けるように1696年には江戸に箔座が設置され、全国で金銀箔の製造と販売までもが禁止されてしまう。箔座は後に金座・銀座と形を変えて江戸幕府が解体されるまで統制は続けられた。

加賀藩でも1698年に領内の金銀箔の使用を停止する命令を伝えており、ここで金沢の箔打ちは一度途絶えたと考えられている。しかし、1808年の金沢城二の丸全焼の後、これを再建するために加賀藩が幕府に願い出て特別に金箔の製造が許される。現代に続く金沢箔の技術はここで再興したものだ。京都から箔職人を招くと同時に、金沢から京都に箔打ちの修行に向いて習得した技術を帰郷後、同業者に伝えたものだという。

この時再興し伝えられた技術は、常に表舞台にあったわけではない。加賀藩は「幕府に隠れて」金銀箔の製造を続けていたとされる。

金銀座が廃止されてようやく自由に箔打ちができるようになると、技術を継承しみがき続けていた金沢箔の独占的地位が高まっていく。明治21年には現在の石川県箔商工業協同組合の前身である箔の有志同業組合が結成される。明治34年には、箔は金沢市の産物として羽二重に次ぐ地位を占めるほどに成長し、大正時代には箔打ちの時間を大幅に短縮する箔打ち機も開発され、金沢箔はますます隆盛した。

昭和に入ると第二次世界大戦時の厳しい統制や公害問題(箔打ち機からでる騒音)など、金箔製造に厳しい時代もあった。まるでジェットコースターのようにアップダウンの激しい箔業界だが、金箔は今日も金沢の工芸品を支える一翼として連綿と打ち続けられている。



金沢市立安江金箔工芸館に展示されている金箔製造の歴史。箔打ち機が発明される前(上写真)と後(下写真)。

金沢市立安江金箔工芸館蔵



金沢市立  
安江金箔工芸館蔵

# 金箔 中級① 検定

金箔を知らずして金沢は語れません。身近にありながらも意外と知られていない金箔のあんなことこんなこと。問題に答えて、プレゼントをゲット!

- 問1** 断切金箔の打ち紙グラシン紙の表面には、( )の溶液を塗って使用する。  
 1. 小麦粉 2. バーボン(ウイスキー) 3. カーボン 4. わさび
- 問2** 洋箔の別名は( )箔である。  
 1. 鉄 2. 真鍮 3. ロジウム 4. 紙
- 問3** 1593年前田利家は、( )で金箔を、金沢で銀箔を打つように命じた。  
 1. 七尾 2. 珠洲 3. 輪島 4. 門前
- 問4** 大正4年に箔打ち機械を開発したのは( )である。  
 1. 西田幾多郎 2. 浦島太郎 3. 三浦彦太郎 4. 桃太郎
- 問5** 縁付金箔の打ち紙である手漉き和紙の主原料は稲藁の芯部( )である。  
 1. ワライナ 2. ロゴ 3. イナゴ 4. ニゴ
- 問6** 江戸時代に発せられた金・銀箔製造禁止のお触れを( )という。  
 1. 生類憐みの令 2. 箔打ち禁止令 3. 鳴物禁止令 4. 窃盜罪

第三回 金箔《中級①》検定の解答は弊所ホームページにて2016年4月初旬に掲載いたします。

郵便はがき

9 2 0 0 8 3 1

切手をお貼りください。

石川県金沢市東山1-3-10  
 金沢市立安江金箔工芸館3F

金沢箔技術振興研究所  
 金箔検定 (vol.13) 係行

## 素敵な金箔商品をプレゼント

上記の金箔検定の解答と下記のアンケートを、左記のハガキにご記入の上、ご応募ください。正解率の高い方から10名様に素敵な金箔商品をプレゼントします(同点の場合は抽選)。

### 応募締切

2016年3月末日(消印有効)

※当選者の発表は商品の発送をもって代えさせていただきます。

## § アンケート §

アンケートにご協力をお願いします。お寄せ頂きました結果をもとに紙面作成を行って参ります。ご回答は左記のハガキにご記入の上、郵送または下記番号へFAXしてください。

### Q1 ご年齢は?

1. 10代 2. 20代 3. 30代 4. 40代 5. 50代以上

### Q2 きんぱーくをどこで手に入れましたか?

1. 図書館 2. 文化施設 3. 市や町の出先機関 4. その他

### Q3 今号のテーマ「金箔ヒストリー」はいかがでしたか?

1. 良かった 2. まあまあ良かった 3. 普通 4. つまらない

### Q4 金箔に関する事で取り上げて欲しいことがありましたらお書きください。

FAX送信先: 076-225-8942 金沢箔技術振興研究所

FAX番号はお間違えないようお送りください。

### 金箔《中級①》検定解答欄

問1	問2	問3	問4	問5	問6
解答欄					

アンケート回答欄	Q1	Q2	Q3
Q4			

商品発送先 住所 〒

お名前

お電話

※プライバシー情報は、商品の発送のみに使用します。

金沢箔技術振興研究所

News Letter きんぱーく

News Letter きんぱーく Vol.13

発行日/2015年11月1日

発行/金沢箔技術振興研究所

〒920-0831 石川県金沢市東山1-3-10

金沢市立安江金箔工芸館3F

tel. 076-225-8941 fax. 076-225-8942

e-mail kanazawa-haku@wind.ocn.ne.jp

金沢箔技研

検索

ホームページ  
<http://www.kanazawahaku-giken.jp>

